

令和3年度 第3回府中市環境保全活動センター検討調整会 議事録

- 日 時：令和3年10月27日（水）午後1時30分～2時40分
- 場 所：本庁東庁舎3階 第1会議室
- 出 席：（敬称略）
（委員）（7名）室 英治、塚原 仁、山田 義夫、増山 弘子、表 伸一郎、
成瀬 こずえ、石川 伊智郎
（事務局）（3名）桑田 浩、塚原 二郎
- 欠 席：（敬称略）
（委員）（2名）内山 雄太、小西 信生
- 議 事

1 新任委員について

8月5日より、石川伊智郎氏が新しく委員に就任されましたので、ご報告いたします。石川氏については活動センターのサポーターで、塚原部会長の推薦もありお願いし、お引き受けいただきました。

2 報告

- (1) 令和3年度 第2回検討調整会書面開催結果について
⇒確認のうえ了承。
- (2) 第4回かんきょう塾のアンケート結果について 専門的な話を一般の方にもわかりやすく紹介していただきました。大変好評でした。できれば会場にはく製や写真などを展示できると良かったと思う。
- (3) かんきょう活動センターだより39号について コロナ禍でイベント開催ができず記事が少ないところであったが、活動センターが10周年を迎えたこともあり、活動センターの特集の目玉として市長のあいさつ文を載せた。また、活動センターの活動紹介と地球温暖化問題の用語説明を載せた。
- (4) その他 先日、市広報10月21日号にも掲載されましたが、府中かんきょう市民の会が内閣府表章の社会参加賞を表章されました。また、活動センターサポーターの杉村康之さんが東京都功労者表彰の地域活動功労で表彰されました。

2. 議事

- (1) 令和3年度かんきょう塾ほかイベントの開催予定について
第5回のかんきょう塾は、正規の締め切りまでに応募が少なく、追加募集として会場に近い4つの文化センターにチラシを置いてもらい、メー

ル配信を行った。その結果、20名まで確保できた。当日の参加者も含めると25名となり、予定の参加者数となった。

エコクッキングは、年度当初に開催できないとしていたが、ここで指導者、会場が見つかり、また、産業振興課主催のふれあい農園も実施されることから、参加者の募集も行うため開催することで準備を進めている。参加者は会場のほぼ人数制限の8名で親子3組となる。11月27日に開催する予定。

今年度のこの他の講座・イベントは、11月13日の元JICA隊員の講演、12月11日に表委員（検討調整会）の地球温暖化についての講演で、今年度はこれでかんきょう塾は終了。来年の2月には、特別公開講演会、親子かんきょう塾を開催する予定。

2月に開催する特別公開講演会の会場の収容数は何名なのか。⇒会場は「ひばりホール」となりこちらのコロナ対応の収容人数は70名となっている。この公開講演会についてはカラーのチラシ等を広く配布しPRしたい。なお、この講演についてはビデオ撮影を行い後日ネットで配信したい。その方法については、現在、市で配信している方法に沿った形で事前申込制として一定の制限をする。今後の講座などもこのような方法が使えるのか、良いテストケースと考えている。

(2) 令和4年度以降の講座・イベントについて

環境学習部会でも令和4年度の講座・イベントを検討しているが、その中でたたき台を作ったので参考にしてください。これは、環境学習部会で検討しているもの、講座やイベントで参加者より希望があったもので、これをたたき台にご意見を出していただきたい。より具合的な意見をお願いしたい。なお、かんきょう塾についてはグループワークがここ2年間でできなかったため、来年はグループワークを中心に行っていきたいという考えがベースにある。

テレビで東大生が行きたいところという番組があり、国立博物館、科学技術館、西洋美術館、江戸東京博物館などがあげられ大変興味深い内容でした。特に国立博物館では専門家のガイドがあり環境含めた内容の解説をしている。一度、行ってみたいらどうか。目黒区の寄生虫館など専門的な所も考えてみてはどうか。また、神田川の地下宮殿（雨水等貯水槽）も大雨対策として作られているがこれも見学してみたらどうか。なお、番組の一位は東京大学でした。なお、本郷校舎の設計をした内田祥三先生は東京農工大学の農学部本館の設計もされている。このほか構内には見どころが多数あるという。是非、見学に行きたい場所である。参考にしたい。

ごみ減量推進課が開催したバス見学会に行ったが、ペットボトルの処理

工場で行先として良いところと思う。⇒令和元年にかんきょう塾で東京湾の埋め立て地の見学を行ったが、この時にごみ減量推進課でも東京湾埋立地の見学を実施していた。ただごみ減量推進課では、ごみに特化した内容の見学を行っていると思いで、今後の行先の参考にごみ減量推進課の行先などの内容を聞いてこちらの行先の参考にしたい。なお、ごみについては産業廃棄物処理を行っている埼玉県の石坂産業株式会社が、環境配慮に特化した形の経営を行っており、地域との連携も良く、参考となる事例である。ここについては以前にもかんきょう塾で見学に行っているが、再度行きたいとの話や、さらに進化した運営や活動が報じられているところである。そのほか府中市のごみ施設など府中市に関連した施設も対象にどうかと話が出ている。

具体的なごみの出し方などの話も聞くのも良いのではないか。浅間山ではコロナ禍にあっては不法投棄が増えていた。家からごみを出す時の分別やそれぞれのごみの出し方などを最新の情報を改めて皆さんに知ってもらうことも意味がある。ごみ収集の現場作業をしている方の話を聞いたらどうか。⇒一度、東芝フォーラムでお笑いの滝沢秀一さんが実際に都内で回収車に乗り作業をしている経験から回収にあたっての注意事項についての回収者側からの講演があった。

(3) その他

活動センターをどこに置くかという話が決まっていないが、以前に活動センターのあり方についての要望書を作っているが、今はどのような状況になっているのか。⇒まだ、市長に見せていない。市長に渡す時は検討委員会のメンバーにも同席していただく予定であったが、コロナ禍となり渡す話が中断している。

どのような手順で市長に見せるのか。環境審議会で話している環境計画の中では活動センターがいろいろな役割を担っているが、活動センターの現状と審議会の中での活動センターの役割がかなり乖離している。審議会の委員には不明な部分である。活動を続けるためにもせめて現状と同様な場所と、もう一人人員を増やすなどの措置ができないのか。

環境審議会では活動センターが十分に機能していると思っているのではないか。市長のところへ活動センターのあり方の要望書を当初の予定どおり持って行き話をしたい。⇒市長に見せる前に課の中で、再度、内容や流れを確認したい。

あり方検討資料の取扱について、課長や課内で相談、部長まで確認をしてもらったうえで市長に持って行くのであれば、今後、あり方要望書を

どのように市長に渡すか。どのように進めていくのかシナリオもしくはストーリーのようなものか報告していただきたい。そのうえで、審議会の委員にみてもらい活動センターの役割などについて意見をもらいたい。審議会との齟齬が無いようにする必要がある。

いずれにしても、活動センターの役割は、拠点としての場が重要で、さらにサポーター等が交代で常駐するなど、とにかく実際に動くことが大事である。その中で改善点や問題点などが出てきて、それに対応することで、より現実的な運営・活動を行っていけると思う。少なくとも令和5年度の場所は確保してほしい。

このような流れ示したシナリオやストーリーを次回に提示してもらいたい。できれば議題にあげていただきたい。

⇒場所について今のところ予定はない。また、例えば展示館のような施設があり、そこの運営・活動をサポーターさん等の組織に委託する形であれば出来なくはないが、活動センター自体はそのような施設ではないので、一般的な形は難しいと考えている。

サポーターについては、その活動がほとんどされていないこと、サポーターの定義もはっきりしていない。

環境審議会で検討している環境基本計画の中に活動センターの役割として大きくあるが、実態が伴っていない状態なので、これを一度削除し見直しをしたらどうか。

前の環境審議会などでは活動センターという名称でなく別の名前が出ていた。これを基にあとから活動センターという形で動いているため中身が後付けとなっている。

市長が活動センターだよりの39号に開設10周年の文書載せているが、活動センターに対する内容は大きく期待しているものである。なおさら、活動センターのあり方の要望書を市長さんに渡して見てもらいたい。
⇒対応について検討する。

あと、大きなイベントに市長に来てもらい、あいさつなどいただけないか。市長が難しい場合は、部長にお願いしてはどうか。

■ 次回開催予定日

令和3年度 第4回府中市環境保全活動センター検討調整会

(通算 124 回)

日 時：令和3年11月19日（金） 午前10時00分～

場 所：府中駅北第2庁舎3階 会議室